

## 桜 島

### 概 況

噴火はなく、桜島の活動としては静かな状態が続きました。

### 噴火活動の状況

噴火はありませんでした。噴火は5月24日以降、爆発的噴火は4月8日以降発生していません。6月までの噴火回数は11回、うち爆発的噴火回数は6回です。

### 噴煙活動の状況

噴煙は乳白色・中量で、噴煙高度の最高は2日05時00分の火口縁上1,000mでした。

### 地震・微動活動の状況

震動観測点B点(南岳火口の北西約2.3km)での火山性地震の月回数は、66回(5月：19回)で5月より増加しましたが、総じて少ない状態で経過しました(図1、図2、図6、図7)。また、火山性微動の月回数は10回(5月：1回)で、5月に比べ増加しましたが、微動出現時間は0.7時間(5月：0.1時間未満)と短いものでした(図3)。

### 降灰の状況

鹿児島地方气象台(南岳の西南西約11km)では、降灰はありませんでした。(5月：降灰量1g/m<sup>2</sup>、降灰日数1日)(図4、図8)。

### 地殻変動活動の状況

GPSによる地殻変動観測では、黒神 - 野尻、黒神 - 藤野、藤野 - 野尻の各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化は見られませんでした(図9)。

### 火口の状況

5日、海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て、上空からの観測を実施しました。南岳のA火口底には、これまで確認されなかった小規模の穴ができていました(図13、図14)。火口底はA、B火口とも依然として深く、火口の深さは約300mはあると思われます(図12、図13)。両火口底に溶岩頭は確認できませんでした。また、火口上空で強い硫黄臭を観測しました。

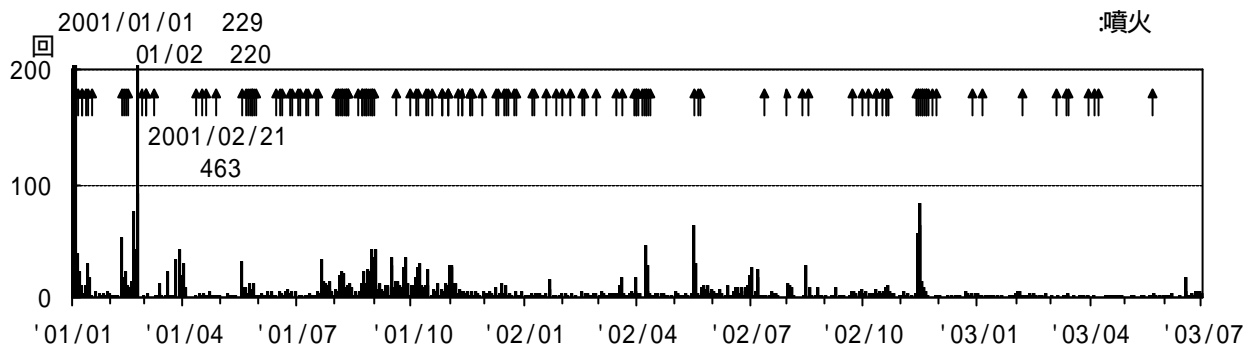


図 1 震動観測点 B 点の B 型、C 型地震日別回数（2001 年 1 月～2003 年 6 月）

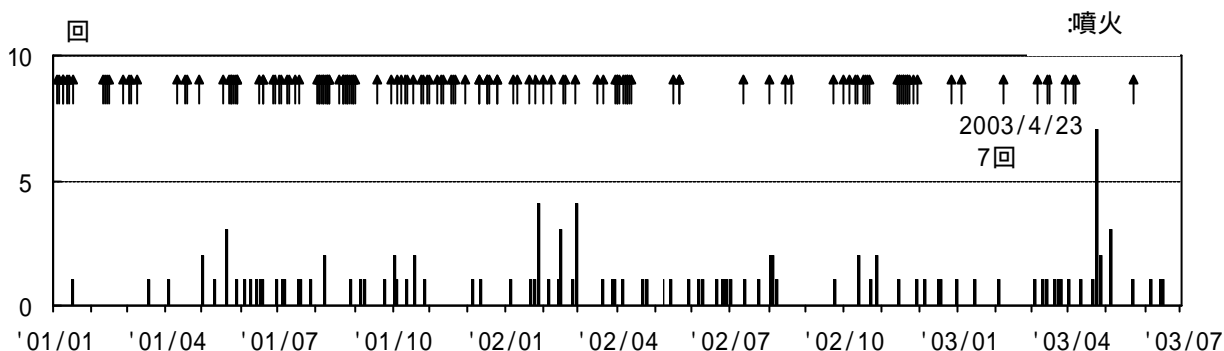


図 2 震動観測点 B 点の A 型地震日別回数（2001 年 1 月～2003 年 6 月）

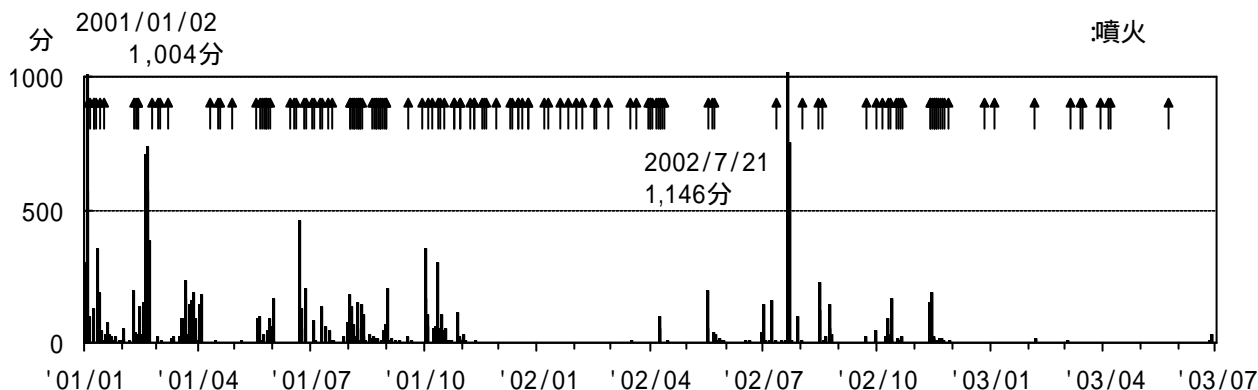


図 3 震動観測点 B 点の日別微動出現時間（2001 年 1 月～2003 年 6 月）

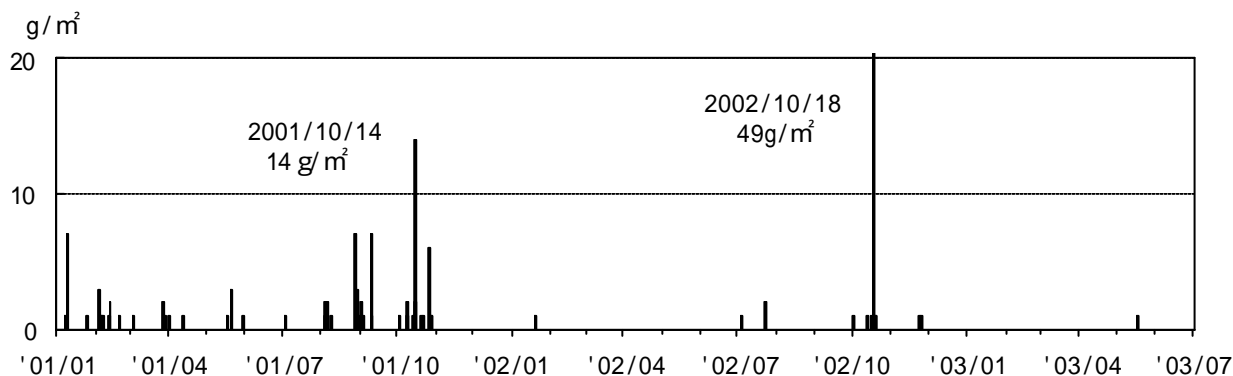


図 4 鹿児島地方気象台における日別降灰量（2001 年 1 月～2003 年 6 月）

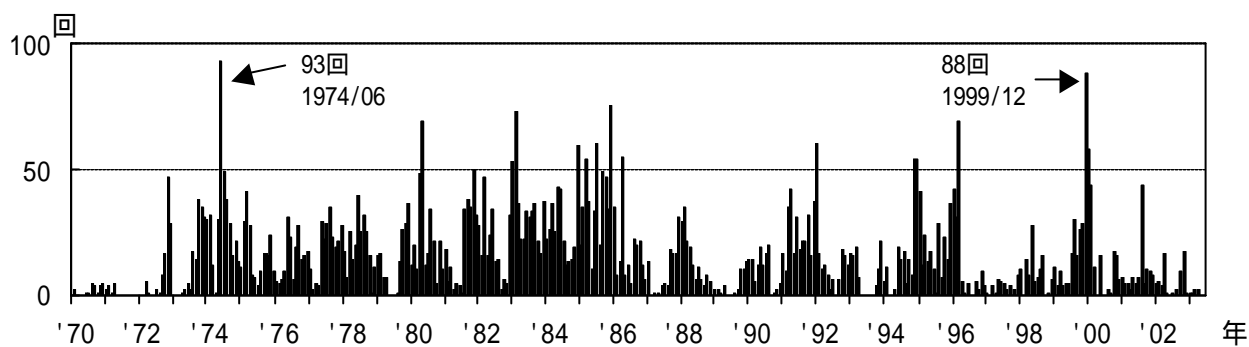


図5 月別爆発回数（1970年1月～2003年6月）

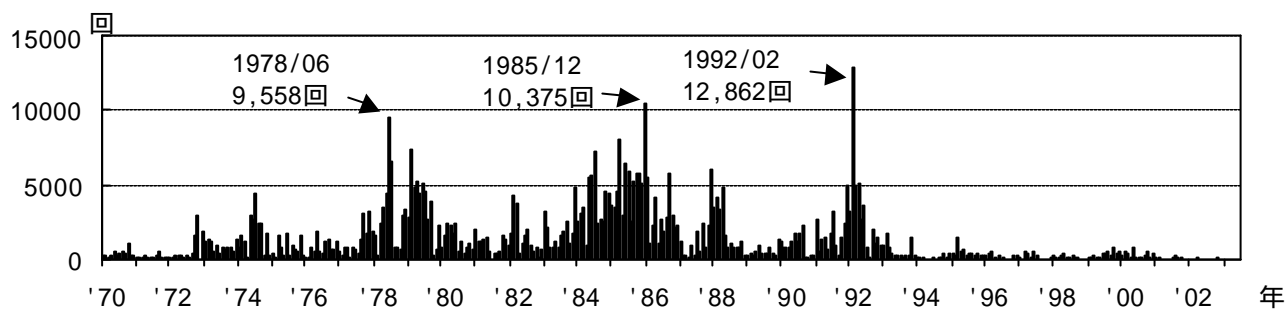


図6 震動観測点A点の月別総地震回数（1970年1月～2003年6月）

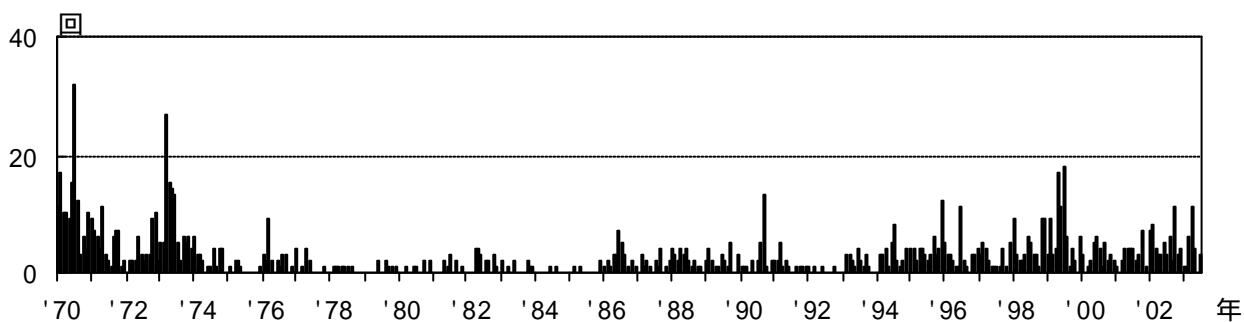


図7 震動観測点A点のA型地震月別回数（1970年1月～2003年6月）

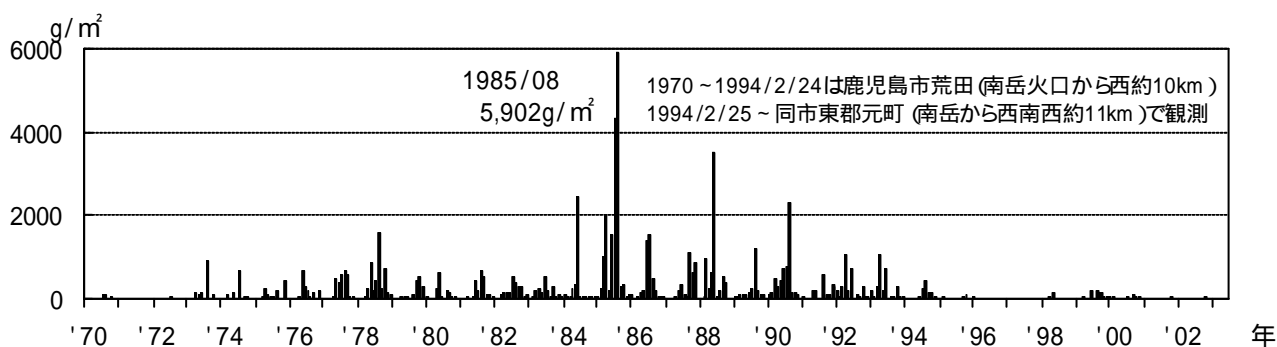
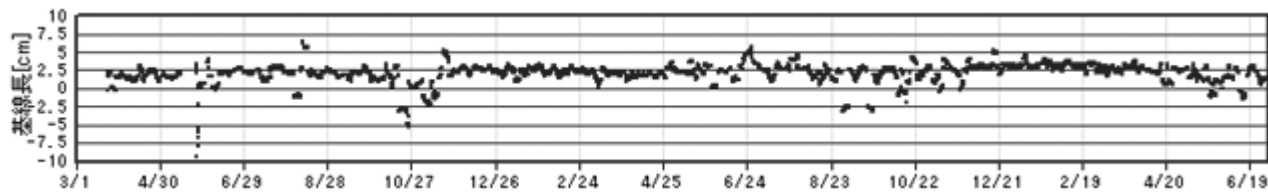
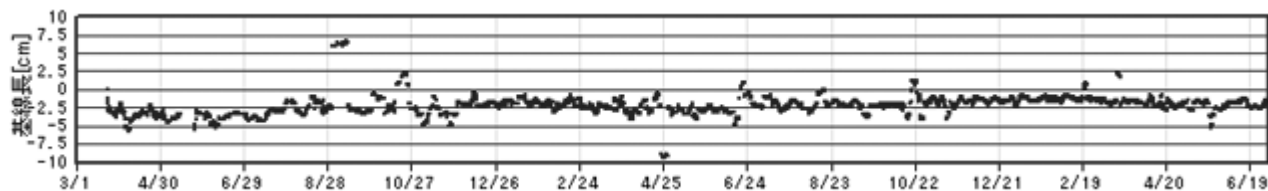


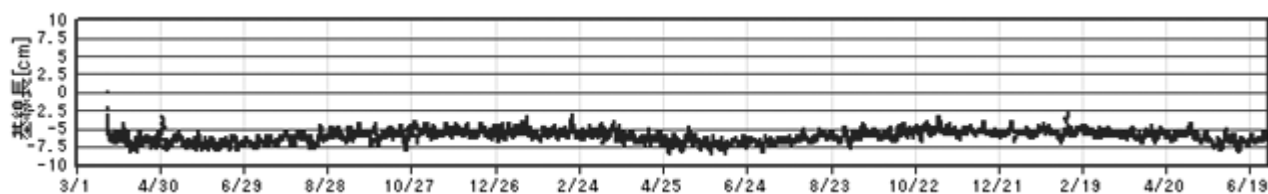
図8 鹿児島地方気象台における月別降灰量（1970年1月～2003年6月）



黒神 - 野尻の基線長変化(2001 年 3 月 22 日 ~ 2003 年 6 月 30 日)



黒神 - 藤野の基線長変化(2001 年 3 月 22 日 ~ 2003 年 6 月 30 日)



藤野 - 野尻の基線長変化(2001 年 3 月 22 日 ~ 2003 年 6 月 30 日)

図 9 GPS による基線長変化

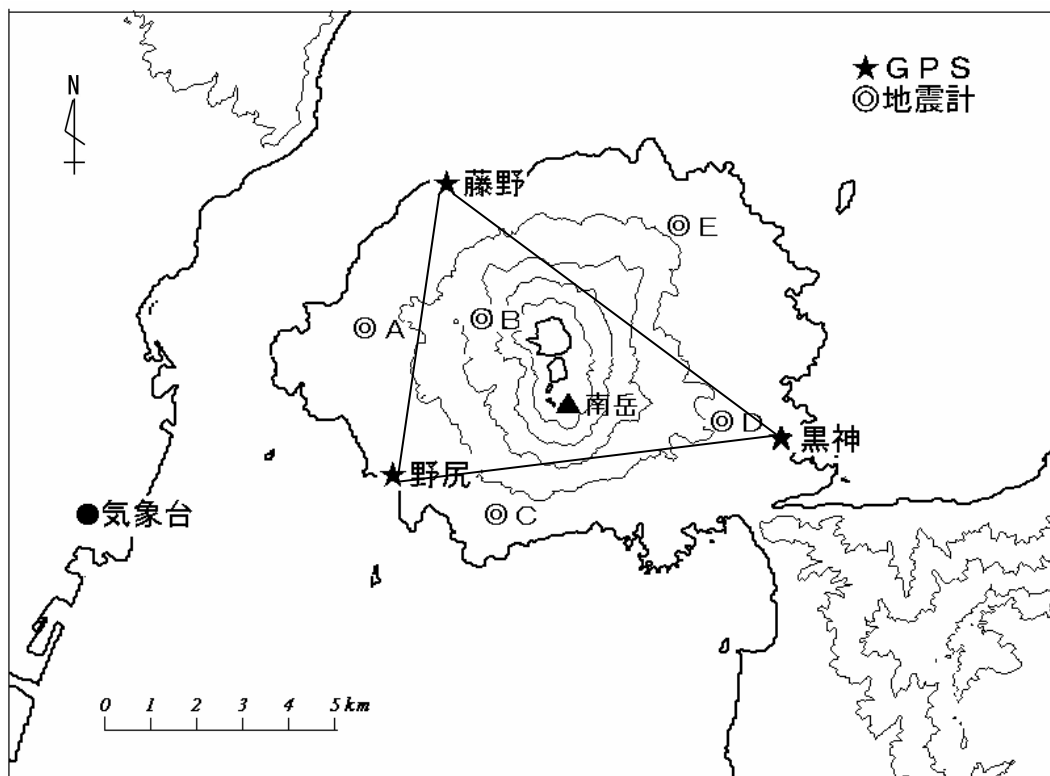


図 10 観測点位置図



図 11 南南東から見た南岳火口全景



図 13 北北西から見た南岳 A 火口



図 12 北西から見た南岳火口全景

手前が A 火口、奥側が B 火口。両火口底とも火口の深さは約 300m と推定される。

火口底に直径 30 m 程の穴が確認され、極少量の噴煙が上がっていた。



図 14 東から見た南岳 A 火口（拡大）

穴の奥に赤熱部分が確認できる。